

原稿作成要領

(1) 一般的事項

- 1) 以下の書式と表記法は、原稿（本文、注、文献、要旨とキーワード、欧文表題、図表、写真の表題と注記）に原則として共通するものとする。
- 2) 原稿は、以下のいずれかで作成する。
 - ①完成イメージでの作成 … 専用テンプレート（本学会 HP に公開）による完成イメージでの作成
 - ②従前形式での作成 … A4 判サイズの縦置き横書き、22 字×36 行で、左右に 60 ミリ、上下に 40 ミリ程度の余白をとり、5 行おきに行番号を付す。なお、22 字×36 行×2 枚で、印刷時の 1 頁の文字量に相当する。
 - ③手書き原稿用紙での作成 … A4 判または B5 版の 400 字詰め横書き原稿用紙に浄書すること。
- 4) 欧文の場合、A4 判に 10.5 pt. 程度の文字サイズで 1 頁 24 行とし、上下左右に各 40 mm 程度の余白を設けること。原稿には 5 行おきに行番号を付すこと。なお、上記書式で、原稿 2 枚が刷り上がり 1 頁に相当する。
- 5) 図表や写真には、第 1 図、第 1 表、写真 1、Fig.1、Table 1、Photo 1 のように一連番号を付すこと。
- 6) 図表や写真の挿入希望位置を、本文原稿の右欄外に記すこと。
- 7) 原稿に図表や写真には、刷り上がり時の大きさを、縮小率、幅（cm または 1 段か 2 段か）のいずれかで指定する。

(2) 用語、数量、文字、数式の表記法

- 1) 常用漢字、現代新かな遣いによる漢字かな交じり文を主体とし、副詞や接続詞は原則としてかな書きとする。ただし、術語、文献の表題、引用文、人名等はこの限りではない。
- 2) 外国の人名と地名、外来語、動植物名は、原則としてカタカナ表記とする。
- 3) 動植物等の学名は、斜字（イタリック）体とし、その和名を併記する。
- 4) 暦年は原則として西暦で記す。元号を用いたい場

合は、「1896（明治 29）年」の表記とする。

- 5) 事項を並列する場合は、原則としてコンマ（,）を用い、中点（・）は用いない。中点は前後を結んで 1 語とする場合に使うのが原則。
- 6) 数量の表記はアラビア数字を使用し、3 桁ごとにコンマで切る。

(3) 引用を表記

本文等での引用文献および引用文の表記は、単著および共著（2 名まで）の場合は連記し、3 名以上の共著の場合は筆頭著者のみを記し、以下の例にならう：

鈴木（1993）によれば…

… といわれている（Clark,1990; 佐藤, 1991,1993; Bush, 1992a, b）。

村上・田中（1993）によれば…

…Smith and Johnson（1992, p.123）は…
…の研究がある（斉藤ほか,1995）。

Davis et al.（1990, pp. 45-67）によれば…
「……」（山本, 1995, p. 89）。

(4) 本文の書き方

- 1) 本文の第 1 頁には、表題、著者名、著者全員の所属とその所在地（連絡可能な程度に詳しく）、ランニングタイトル（刷り上がり頁上部の見出し）のみを記載すること。なお、ランニングタイトルは、25 字以内（欧文原稿の場合は 6 語程度）とする。
- 2) 本文の構成は、「章」をローマ数字の I, II, III …, 「節」をアラビア数字の 1, 2, 3…, 「項」を片カッコ付数字 1), 2), 3) …で表すこと。
- 3) 文部科学省科学研究費等を使用した場合は、その旨を末尾に記入すること。

(5) 注、図表、写真の表題、凡例、注記

これらのテキスト（文字）部分は、引用順やそれぞれの番号順に配列して、本文の次に一括する。

(6) 文献の書き方

- 1) 原則として、印刷・出版された刊行物を引用すること。web ページの引用は、他の手段では入手が困難な刊行物ないし未刊行資料を利用する場合、あるいは web ページそのものを利用する場合に限り、その引用情報を注として記すこと（下記 10 を参照のこと）。
- 2) 文献は、著者名のアイウエオ順に配列した和文を先に、著者名の ABC 順にした欧文を後に書く。
- 3) 同著者の同一年次の文献は、年次の後に引用順に a, b, c…を付して区別する。
- 4) 欧文の書名と雑誌名は、斜字（イタリック）体とする。
- 5) 雑誌名の略記については、慣例にしたがうこととし、過度に省略しない。
- 6) 巻数は、太字体とする。
- 7) 通し頁のある雑誌は、巻数、通し頁で表記し、通し頁がない雑誌は巻数の後に号数も付すこと。
- 8) 出版地が東京以外の場合、明記すること。
- 9) 他は、以下の表記例と本誌最新号を参照のこと。
 - ・単行本（和書）
松井 健・近藤鳴雄（1992）：土の地理学—世界の土・日本の土—。朝倉書店。
 - ・同（洋書）
Gregory, D. (1994) : Geographical Imaginations. Blackwell, Cambridge.
 - ・編集本（和書）の一部
藤田佳久（1994）：農村風土の基本的構図。藤田佳久・菊地俊夫・西野寿章編：人間環境と風土。大明堂，1-11。
 - 三浦 修（1992）：風土に育まれた屋敷林・イグネ。塚本哲人・渡辺信夫・米地文夫編：風土にみる東北のかたち。河北新報社，仙台，126-154。
 - ・同（洋書）の一部
Hägerstrand, T. (1995) : Landscape as overlapping neighbourhoods. Benko, G.B. and Strohmayer, U. eds. : Geography, History and Social Sciences. Kluwer Academic Pubs., Dordrecht, 83-96.
 - ・翻訳本
レルフ著，高野岳彦・阿部隆・石山美也子訳（1991）：

場所の現象学—没場所性を越えて—。筑摩書房。

Relph, E. (1976) : Place and Placelessness. Pion, London.

・編集本の訳本の一部

ジャービス, B. (1985) : 真実は宿無しにしかわからない。バージェス, J.・J.R. ゴールド編著，竹内啓一監訳（1992）：メディア空間文化論—メディアと大衆文化の地理学—。古今書院，107-150。

Burgess, J. and J.R. Gold eds. : Geography, The Media and Popular Culture. Croom Helm, London.

・論文（邦文）

米地文夫（1995）：戊辰戦争～明治初年における地名「東北」—史料および明治前期地歴教科書の分析—。季刊地理学，47, 267-284。

友澤和夫（1995）：工業地理学は何をめざすか。地理，40-2, 72-76。

・同（欧文）

Pile, S. (1993) : Human agency and human geography revisited : a critique of 'new models' of the self. Trans. Inst. Br. Geogr. N.S., 18, 122-139.

10) web ページにある情報を引用した場合は、下記の例にならい、web ページの作者名あるいは制作機関名、作成年、刊行物、未刊行資料あるいは web ページの名称、URL、および閲覧日を、注として記載すること。ただし、作成年については、それが引用する刊行物、未刊行資料、web ページに明示されている場合にのみ記載すること。また、情報がダウンロード可能な形態で掲載されている場合には、掲載ページの URL のみを記すこと。

・表記例

注番号) 東北農政局，2008，基本政策，<http://www.maff.go.jp/tohoku/kihon/index.html>（2008 年 12 月 16 日閲覧）。

注番号) Physical Sciences Division of the Earth Systems Research Laboratory, PSD Climate and Weather Data, <http://www.cdc.noaa.gov/data>（2008 年 12 月 16 日閲覧）

(7) 要旨とキーワードおよび欧文表題等の書き方

- 1) 要旨の長さは、和文 500 字以内、欧文 1,000 語以内とする。
- 2) キーワードは、7 語以内とし、要旨の後に記す。欧文要旨をつける場合は、欧語キーワード（7 語句以内）をその後につける。
- 3) キーワードは、検索の便宜を図るためのものであることをふまえて、研究分野、研究対象、方法、研究地域を端的に表すものを選ぶこと。
- 4) 欧文表題（欧文要旨と欧語キーワード）の後に、欧語で所属とその所在地を明記すること。
- 5) 欧文原稿の場合は、上記の欧文表題等を和文表題等に適宜読み替えること。
- 6) 欧文は、著者の責任において、語学的に吟味されたものであること。

(8) 図、表、写真に関する留意点

- 1) 図と写真はそのまま印刷可能なものとする。
- 2) 刷り上がり時の図表と写真の大きさは、表題、注記も含めて最大 14 cm×19 cm（1 頁）である。また、誌上での割り付けは、原則として 1 段幅（7 cm 以内）か 2 段幅（10～14cm 程度）のいずれかである。想定している刷り上がり時の大きさを、幅（cm）または縮小率で指定する。
- 3) 作図にあたっては、縮小効果を考慮し、0.1mm 以下の線やパターン、記号が判読不能にならないように配慮すること。
- 4) 図中の文字は、縮小を考慮して判読可能な大きさで作成する。
- 5) 表は、過度に複雑になったり長大にならないよう配慮する。
- 6) 図、表、写真には、台紙の右上スミ（台紙がない場合は裏）に、著者名と番号を記入する。

(9) その他

- 1) 本要領は、66 巻 1 号から適用する。